

国 語

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 国語科における個別最適な学び、協働的な学び

中央教育審議会答申では、目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、「全ての子供たちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』の実現」とすることが提言された。

国語科における「個別最適な学び」とは、生徒一人一人が言葉による見方・考え方を働かせ、各単元の目標の実現に向けて言語活動に取り組むことを通して、自分の特性や学習進度、学習到達度、興味・関心、キャリア形成の方向性等に応じて、自らの学習を調整することをいう。例えば、「言語文化」の単元「和歌や俳句、漢詩等の世界を参考に、自分の体験や思いを散文で表現しよう」において、季節感に着目しながら散文を書くという学習活動を行う際に、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、自分の学習到達度に応じて、文章の種類や文体、語句などの表現の仕方を工夫することが挙げられる。

他方、「協働的な学び」とは、他の生徒等との学び合いのことである。国語科においては、学び合いの中で、一人一人が言葉による見方・考え方を働かせることにより、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出すことが大切である。例えば、先述した単元において、同じ季節を取り上げた生徒の間で、作成した散文を相互に評価し合った後、それを踏まえて自分の体験や思いがより効果的に伝わるよう、文章を推敲するような取組が考えられる。

授業づくりに当たっては、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要である。

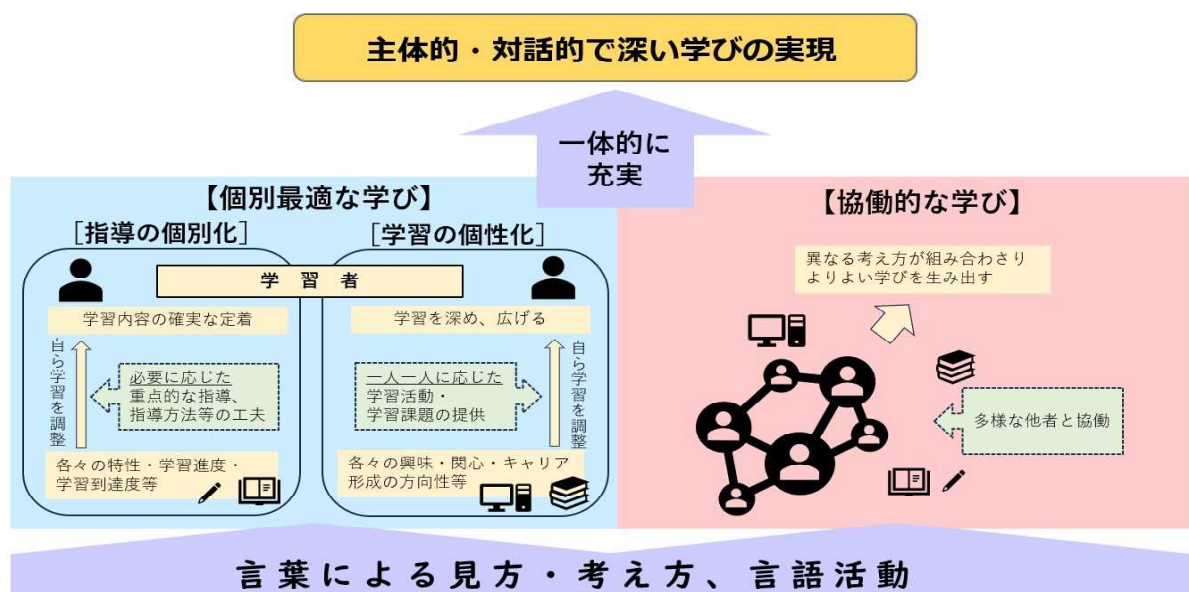


図1 国語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のイメージ（「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」を基に作成）

なお、「個に応じた指導」の観点から、障がいのある生徒などについて、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが求められる。

例えば、国語科における配慮として、比較的長い文章を書くなど、一定量の文字を書くことが困難な場合には、文字を書く負担を軽減するため、手書きだけではなくICT機器を活用して文章を書くことができるようにすることなどが考えられる。

(2) 国語科における共通性の確保を目指した学び

各高等学校において、「多様性への対応」を図りつつ、高等学校教育の質の確保・向上を目指すには、全ての生徒がその後の進路に関わらず、社会で生きていくために広く必要となる資質・能力を共通して身に付けられるよう「共通性の確保」を進める必要がある。

いずれの高等学校の、いずれの課程・学科にあっても、共通して取り組むべき特に重要なこととして、

- ・自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力の育成
 - ・自ら問いを立て、多様な他者と協働しつつ、その問いに対する自分なりの答えを導き出し、行動することのできる力の育成
 - ・自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力の育成
- などが挙げられる。

国語科において、上記の力を育成する上で、過程を重視した学習を充実させることや、生徒が学習の見通しを立てたり振り返りをしたりする活動を計画的に取り入れることが重要である。国語科の授業では、図2のような取組が考えられる。

過程を重視した学習の充実		生徒が学習の見通しを立てたり振り返りをしたりする活動
【知識と【思考力、判断力、表現力等】を相互に関連付けてより深く理解する学習】  漢字の学習において、【思考力、判断力、表現力等】の各領域における学習と関連付けながら、文や文章の中で使う。	【情報を精査して考えを形成する学習】  文章を書く際に、根拠や論拠の吟味を重ね、主張を明確にする。	【生徒が学習の見通しを立てる活動】  話し合うことの学習において、話し合いの目的を踏まえて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する。
【課題を見いだして解決策を発表する学習】  古典に関する課題を設定し、資料を調べるなどしながら探究して解決を図り、成果を発表する。	【思いや考えを基に創造する学習】  小説や詩歌などの文学作品を創作する活動において、固定概念に捕われずに豊かに発想し、それを自らの創作に生かす。	【生徒が学習したことを振り返る活動】  模擬面接で、面接担当者の立場になって、自分のことを聞き手に分かりやすく伝えるために必要なことを振り返る。

図2 国語科における共通性の確保に向けた取組の例

(3) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための学習評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかといった意思的な側面を評価することが求められている。この観点は「学びに向かう力、人間性等」の育成に当たって重要であり、また、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実を図る上でも特に重視する必要がある。

国語科における「主体的に学習に取り組む態度」の趣旨は、「言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。」と説明されている。したがって、この趣旨を踏まえて「主体的に学習に取り組む態度」の評価を適切に行うためには、単元の中で、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面や他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面、生徒が自らの学習を振り返る場面などを設けることが重要である。

また、時間的・空間的制約を超えること、双方向性を有すること、カスタマイズが容易であることといったICTの特長を踏まえ、国語科の授業における教育効果を考えながら、様々な場面でICTを活用した情報の共有、共同編集、成果物の再構築などを行うことが効果的である。例えば、スピーチや発表の練習風景の動画をクラウド上で共有し、相互評価を行うことにより、発表者が自己を客観視し、他者からの評価を参考に試行錯誤するなど、自らの学習の調整を行うことが可能となる。

2 指導と評価の計画例

現代の国語「資料を用いて効果的に発表しよう（A 話すこと・聞くこと）」の計画例

キーワード ICT 社会と関わる 個別最適な学び 協働的な学び

ア 単元の目標

(ア) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。

〔知識及び技能〕(1)オ

(イ) 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くこと(1)ウ

(ウ) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

イ 本単元における言語活動と教材

(ア) 言語活動 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する活動。

関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くこと(2)エ

(イ) 教材 (例)「資料を用いて発表する」(『現代の国語』大修館書店)

(例) プレゼンテーションに関する参考動画等の資料

ウ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話の効果的な組立て方や接続の	「話すこと・聞くこと」におい	資料を用いた発表を通して、話の

仕方について理解している。(1)オ)	て、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	効果的な組立て方について理解し、相手の理解が得られるように他者と協働して表現を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。
--------------------	--	---

エ 指導と評価の計画（全7時間）

次	学習活動	指導上の留意点等	評価規準・評価方法等
1 （ 1 単 位 時 間 ）	○単元の目標や学習の進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○次の資料を参考に、相手の理解が得られるプレゼンテーションのポイントを考え、自分の意見をホワイトボードアプリに書き出す。(個人) (1)山中伸弥「どう伝えるか」 (2)プレゼンテーション動画 (3)ニュース映像等	・教科書その他、ICTを活用し、YouTubeやニュース動画等を視聴する。プレゼンテーションのモデルとなる好事例の動画だけでなく、相手の理解が得られないような例も示すことで、比較しながら生徒自らがポイントを見いだすことができるようにする。	既習事項を踏まえながら、生徒自ら新たな学びの視点を発見できるように適切な教材選定を行う。
	○ホワイトボードアプリを用いてクラス全員の意見を共有する。(協働)	・資料の用い方と話の展開について着目させる。	ICT機器やアプリを使用することで、多くの他者の意見に触れ、自らの考えを広げるなど、協働的な学びを充実できるようにする。
	○教育用ゲームアプリを活用し、適切な資料の用い方、話の組立て方に関する小テストを行う。	・効果的な話し方については、義務教育段階で学習した事項についても確認する。 ・意見を共有する際は、自分の視点になかったものに注目し、多角的な視点で物事を捉えるよう指導する。 ・小テストを実施し、資料の用い方や話の展開に関して理解できているかを確認する。	【記録に残す評価】 観点：知識・技能 方法：「記述の確認」教育用ゲームアプリ ※本手引p7カ(イ)参照
2 （ 4 単 位 時 間 ）	○「自校の魅力を中学生に分かりやすく説明する」という学習課題を確認する。	・学習課題を提示する際は、目的とともに表現する手段や対象等を明確にする。 ・後に行うプレゼンテーションで代表者に選ばれた場合は、実際の学校説明会等で発表してもらうことを伝え「社会と関わる学び」を意識させる。	

	○自校の魅力をマップ法を用いてホワイトボードアプリに書き出す。(個人) ○グループになり、自校の魅力をKJ法を用いて協議し、ホワイトボードアプリに整理する。(協働) ○グループごとに①～③の3つの項目の中から、プレゼンテーションするものを一つ選ぶ。	・自校の魅力を整理する際は、①学習、②部活動等の教育課程外の活動、③その他の3つの項目から考えるよう促す。 ・グループは原則3名以内とするが、生徒の特性等に応じて弾力的に取り組めるよう配慮する。一人で取り組みたい生徒がいる場合はそれを認め、孤立した学びとならないよう、適宜、声掛けを行う。	指導の個別化 多様な表現方法が選択できるように工夫することで、声を出して発表することに困難がある生徒や、人前で話すことへの不安を抱いている生徒など、特別な配慮が必要な生徒などへの対応を行い、生徒が自分の考えを表すことに自信がもてるように配慮をする。
	○グループごとに発表方法と発表資料の作成方法を選択する。発表内容は、台本にまとめる。 学習の個性化 (発表方法の例) 1 聞き手の前で実際に発表 2 発表を録画	・発表方法や資料作成の方法を選択できるよう様々な選択肢を示すことで、生徒が自分自身の特性に応じて学習を進めることができるように促す。 (資料作成の方法の例) 1 Googleスライド 2 動画 3 手書きフリップ	【指導に生かす評価】 観点：思考・判断・表現 方法：「記述の確認」ホワイトボードアプリ、発表資料、台本 生成AIの使用に係る留意点 ・生成AIツールの利用規約の遵守 ・生成AIの性質やメリット・デメリット、情報の真偽を確かめるような使い方、著作権の侵害等に関する事前学習の実施 ・自分の判断や考えが必要であることを十分に指導 など
	○前次のホワイトボードアプリの内容を参考に、3次でのプレゼンテーションにおける自分の目標を設定し、見通しを立て、Googleフォームで回答する。	・送信したGoogleフォームは手元にコピーが残る設定にし、毎時間、自分の学習の進捗や方法を可視化し、発表資料の完成に向けた見通しをもたせる。	【指導に生かす評価】 観点：主体的に学習に取り組む態度 方法：「記述の確認」Googleフォーム ※本手引p7カ(イ)参照
3 （ 2 単 位 時 間 ）	○グループごとにプレゼンテーションを行う。 ○他のグループのプレゼンテーションを評価する。 ○Googleフォームを用いて自己評価を行う。	・①～③の項目で、それぞれ評価の高かったグループを、学校説明会等で発表させる。 ・自己評価は、2次で立てた目標や見通しと照らし合わせて評価するように促す。	【記録に残す評価】 観点：思考・判断・表現 方法：「記述の分析」発表資料及びプレゼンテーションの記録動画 【記録に残す評価】 観点：主体的に学習に取り組む態度 方法：「記述の分析」Googleフォーム ※本手引p7カ(イ)参照

才 学習指導案（3時間目／7時間中）

[illegible]

まとめ（5分） ・3次でのプレゼンテーションにおける自分の目標を設定し、作業の経過報告、次時の予定をGoogleフォームで回答し、作業の見通しをもつ。	個人	・目標を立てる際には、1次で作成した「相手の理解が得られるプレゼンテーションのポイント」のホワイトボードアプリを参考にするよう促す。 ・送信したGoogleフォームは手元にコピーが残る設定とし、毎時間自分の目標を確認し、学習の進捗を可視化することで、完成に向けた見通しをもつことができるようにする。	・本時の評価は、「指導に生かす評価」であるため、Googleフォームの回答状況を確認し、適宜、助言等を行う。
--	----	---	---

カ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 学びに向かう力を育成するための学習の進め方の工夫

本単元での学習過程において、実際の学校説明会等で発表することを意識させることで、教科での学びを実際の生活に生かそうとする態度が育成されるよう工夫した。また、学習方法や発表方法、資料作成の方法等を生徒自身が選択することで、自ら学習を調整する力を高めることができるよう工夫した。

(イ) ICTを活用した評価の工夫

○「教育用ゲームアプリ」を活用した小テストの例（1／7時間目）

適切な資料の使い方、話の組立て方に関する小テストを10問行う。



次のうち、どのようなスライドが良いスライドの条件ですか？

▲文字をメインに構成する

●絵をメインに構成する

◆1枚のスライドに多くの図を配置する

■絵と文字は半々にする



スピーチをする際は、その場の雰囲気に合わせてすることが大切なので、スライド資料に捉われ過ぎず、その場で思いついたことを話した方がよい。

☐ ☐

○「Googleフォーム」による目標・計画・経過報告の例（3～5／7時間目）

生徒が送信した内容は、生徒の手元にコピーが残る設定にする。

資料を用いて効果的に発表しよう

本単元における自分の目標を入力してください。*

回答を入力

現在の台本作成の進行状況を選択してください。*

1

2

3

4

5

手を付けていない

☐ ☐ ☐ ☐ ☐

完成した

目標・計画の作成や経過報告を全て共有ドライブ上で行わせることで、授業者はリアルタイムに生徒の状況を個々に把握することができる。経過が思わしくない場合の改善策を立てられるよう、個別に助言するなど、指導に生かす。

○「Googleフォーム」による自己評価の例（7／7時間目）

本單元における目標の達成状況について自己評価させるとともに、主に記述式回答の箇所を使用して、「主体的に学習に取り組む態度」について「記録に残す評価」を行う。

資料を用いて効果的に発表しよう（自己評価）

本單元における自分の目標は達成できましたか。*

	1	2	3	4	5	
できなかった	☐	☐	☐	☐	☐	できた

上記のように評価した理由を説明してください。（できなかったことがある場合は、改善策も考えること）*

回答を入力

あなたは、話の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができましたか。*

	1	2	3	4	5	
できなかった	☐	☐	☐	☐	☐	できた

あなた（達）は、相手の理解が得られるように表現を工夫して発表することができましたか。*

	1	2	3	4	5	
できなかった	☐	☐	☐	☐	☐	できた

「資料を用いた発表、話の組立て方について理解し、他者と協働して表現を工夫し、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「計画性をもって、自身の作業を客観的に振り返り、学習の調整を行っている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、評価する。